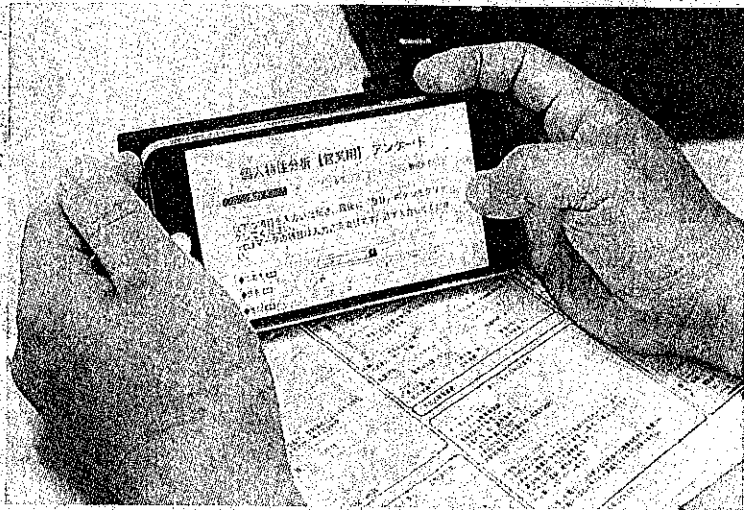


# コロナ禍 非正規の生活困窮が深刻

# 仕事も、家も失った

## 県内支援団体 「失業増の恐れ」

山梨県内で路上生活者や生活困窮者を支援するNPO法人「やまなしライフサポート」(中山八十司理事長)に、深刻な生活困窮の相談が相次いで寄せられている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気悪化が要因と思われる相談も出始めていて、失業した非正規労働者が住まいを失うケースも。県内は緊急事態宣言の解除で経済活動が再開に向かうが、自粛ムードの解消は遠く、同法人は「困窮状態に陥る失業者が増加する可能性がある」と危惧している。



「採用は狭き門です」。5月半ば、甲府市小瀬町の山梨カトリック福祉センターで行われたオンライン面接。男性(31)は画面越しの人事担当者の言葉を聞きながら深々と頭を下げた。「どうぞよろしくお願ひします」。努めて明るい表情を作ったが、生活再建の見通しが立たないことに内心穏やかではなかった。

非正規社員として先月末まで甲府市内の飲食店に住み込みで働いていたが、勤務先は3月下旬から営業を自粛し、

オンラインで就職試験を受ける男性。生活保護を受けながら再就職を目指している。

甲府市小瀬町

4月下旬に閉店。仕事と住居を同時に失った。

危機感を覚えたのは国内で感染が拡大し始めた2月末。「予約は全てキャンセル」「売り上げが9割減った」。

男性は同僚の話聞いて転職活動を始めた。すぐに東京都内に本社を置く大手リゾート施設の正社員採用が決まったが、4月上旬、入社可否を保留とするメールが届いた。

所持金も行き場も無く甲府市役所に駆け込むと、同法人が運営する緊急一時宿泊施設「ライフ荘」を紹介された。

ライフ荘では、住まいが確保できるまで2週間を目安に、無料で生活場所と食事を

提供。男性は退所期限を過ぎても就職先が決まらず、生活保護を受けて再就職を目指す。「半年後には雇用情勢も回復しているかもしれないが、数日先も見通せないことが苦しかった」と打ち明ける。

感染拡大による業況の悪化で、県内で解雇や雇い止めに遭う人が相次いでいる。山梨労働局が2月から設けている特別労働相談窓口には、20日までに解雇・雇い止めの相談が134件あった。

同法人でも3月以降、「派遣切りに遭い住居も職も見つからない」「食事も確保できない」などの深刻な困窮相談が寄せられている。相談をし

た現役世代の多くが就職を希望しているが、「県内では住宅や寮付きの求人がほとんど無く、外出自粛が求められる状況下では、県外での就職活動も慎重にならざるを得ない」と同法人。

中山理事長は今後、県内で「コロナ解雇」や、県外で職を失って山梨に移動してくる困窮者の増加を危惧する。

「ライフサポート」に寄せられる相談は氷山の一角。非正規労働者ら立場の弱い人が生活困窮に追いやられており、福祉事務所などと連携して支援を進めたい」と話している。

〈戸松優〉